

野々市市提案型協働事業 活動紹介

協働事業名	Design a More Attractive Nonoichi：外国人住民にとっても住みやすい街づくりを
事業年度と提案タイプ	令和元年度 市民提案型
解決を目指す課題	外国人住民への対応として、市はホームページに多言語表記を導入するなどしていますが、情報が正しく伝わっているのか、どのような情報があれば生活しやすいかなどを調査する仕組みは整っていません。当事業では、アイデアを創造する手法である「デザイン思考」を用いて、市が平成31年4月に開設した「にぎわいの里ののいち カミーノ」を外国人住民が積極的に利用しやすくなるような情報発信を行いました。
協働のポイント	
団体名称	金沢工業大学・Design for the Community
団体の紹介	理工学系学生が地域と連携し外国人住民にとって住みやすい街づくりを担うことを目的として2013年に設立し、市との地域連携教育研究プロジェクトを実施しています。市が日本語で提供しているパンフレットの英語版を作成したほか、オープンデータを使用したスマートフォン用 Web アプリやチャットボットの開発を進め、外国人住民向けの情報発信を行っています。
行政担当課	市民協働課

活動の紹介（事業概要）

アイデアを創造する手法である「デザイン思考」を用い、以下の通り事業を実施しました。

デザイン思考1. EMPATHIZ 共感：インタビューの実施

市内在住の外国人6名に実施しました。その結果、「インベトに参加し、知り合いたい」「日本文化を知りたい」など、多数の意見が得られました。

デザイン思考2. DEFINE 明確化：共感マップの作成

1. で得られた多数の意見を整理し、共感マップを作成しました。その結果、「日本人と知り合いたいができない」、またはその「機会がない」、「文化的な習い事などに参加してみたいがどうすればいいかわからない」といった課題が明確になりました。

デザイン思考3. IDEATE 概念化：解決方法の検討

文化的な教室は市の「にぎわいの里ののいち カミーノ」で多く実施されていますが、外国人住民はカミーノができたことは「知っている」ものの「その建物が何か知らない」という回答がほとんどでした。施設やサークル紹介のパンフレットはあるものの、英語版がないことから、課題解決の方法として英語版パンフレットの作成に取り組むことを決定しました。

デザイン思考4. PROTOTYPE プロトタイプ作成：英語版パンフレット作成

解決策の具体化としてまず、サークル紹介の英語版パンフレットを試作しました。

デザイン思考5. TEST 試行：再インタビューおよび担当課との協議

試作したパンフレットを見た外国人住民からは「代表者に直接電話をして参加希望を伝えるのはハードルが高い」という意見が得られました。市の担当課と協議した結果、外国人住民はサークル代表者への電話連絡ではなくカミーノ窓口で申込みできる仕組みに変更となり、その補助資料となる申込書および返信用テンプレートを作成しました。

